Wikipedia人的資源マイニング

プロジェクトマネジメントコース　矢吹研究室　1142066　曽我勇貴

1．研究背景

　Wikipediaは不特定多数のボランティアにより記事の投稿・編集がおこなわれ，更新している．

　Wikipediaの成功にかかわったと思われる機能は，「ウィキペディア・レボリューション」[1]を参考に読み取った．記事を作成するときの議論の場を「ノート」というページを設けた．ここで記事の内容が正しくなるように議論が行われ，最終成果物が記事となる．また，「井戸端」というページでは，Wikipedia自体についての議論の場も設けられ，ここで行われた議論は，自動的に残るようになっている．

　ウィキを使うことによって簡単にこの百科事典に参加することができたので，多くのボランティアの人々が集まったのではないかと考察した．

　Wikipediaは非営利組織であり，2001年1月15日に創設され，2003年6月20日に「ウィキメディア財団」がジミー・ウェールズにより創設された．

　財団の目的は，ウィキを用いて，不特定多数のボランティアによりオープンコンテキストの知的資源(知的資源は無料で一般に提供されている)を開発することである．

アーロンHalfakerらの研究[2]によると，ウィキペディアの参加者が成多くなったことによって，品質と一貫性を管理するためのツールが，新しくウィキペディアに参加しようとする人々を減少させていると研究している．Wikipediaの日本語版の統計[3]によると，日本の4年間の統計では，「活動中の登録者数」は，2009年11月1日の11,310人に対して，2013年12月12日は，10880人と減少している．

2．研究目的

　Wikipediaを一つのプロジェクトとみなし，このオンライン百科事典で人的資源がどのように活用されているかを調査する．この調査により，オープンな共同作業プロジェクトにおける，人的資源マネジメントのあり方についての知見を得たい．

3．研究方法

　Wikipediaの作業履歴データを取得し，どのように人的資源が活用されているかを明らかにする．また，オープンな共同作業プロジェクトにおける人的資源マネジメントのあり方を提案する．

4．成果物のイメージ

　閲覧数の多い記事の編集者数と総編集回数のヒストグラムを書き，傾向に偏りがあるかを調査し分類する．総論．

5．進捗情報

　Wikipediaの登録者数の変動について，Wikipediaの参加者の数値が急激に変化していたところをGoogle Trendを使い調査したところ，同じような傾向が見られ，SOPA法案への抗議のためのものによると考察した．

　Wikipediaのグラフ[4]を読み取り，Excelのピポットテーブルを用いてグラフと表を作成した．

Wikipediaマイニング[5]を調査し，WikipediaをWebマイニングしたものであり，Webコーパスとして有益な情報を抽出する手法がある．総論．

6．今後の計画

　Wikipediaの全データをダウンロードしたものを，APIで解析する．

　Wikipediaのコミット回数のヒストグラムを描き，どのような傾向がみられるか調査する．

参考文献

[1]アンドリュー・リー.“ウィキペディア・レボリューション”.早川書房.2009.8.20.

[2]アーロンHalfaker:出版物

<http://www-users.cs.umn.edu/~halfak/publications/The_Rise_and_Decline/>

[3]“Wikipedia：日本語版の統計”

<http://ja.wikipedia.org/wiki/Wikipedia:%E6%97%A5%E6%9C%AC%E8%AA%9E%E7%89%88%E3%81%AE%E7%B5%B1%E8%A8%88>(参照2013.11.4).

[4]“ウィキペディア　多言語統計　日本語版”

<http://stats.wikimedia.org/JA/ChartsWikipediaJA.htm>

(参照2014.9.3).

[5]“Wikipediaマイニング”

<http://sigwp.org/ja/index.php/Wikipedia%E3%83%9E%E3%82%A4%E3%83%8B%E3%83%B3%E3%82%B0>(参照2008.2.18).